

第20期 福祉たすけあい助成

15団体に総額400万円を助成しました



助成団体情報は
こちらから

- **ことさんち** (横浜市)
里親子・縁組親子のためのあそび場『ことさんち』、『あかちゃんの会とおもちゃの広場』
- **(特非) 鶴の仲間** (横浜市)
高齢者・障がいのある人など移動に制約のある人の外出支援(福祉有償運送)
- **一般社団法人 神奈川県がん患者団体連合会** (横浜市)
神奈川県各学校へ「がん教育」を届ける
- **NPO法人 まちラボ** (横浜市)
仲間と出会う・仲間とまなぶ・地域とつながる『みんなでつくる大人のしゃべり場』
- **(特非) フードバンク横浜** (横浜市)
フードロス削減とひとり親世帯支援をタイムリーに結びつける仕組みづくり
- **(特非) フュージョンコムかながわ・県肢体不自由児協会** (横浜市)
常時ケアが必要な重度障害の方を対象にした訪問型生涯学習支援
- **一般社団法人 とえはたえ** (横浜市)
福島県被災地研修 ～中高生によるスタディツアー～
- **チーム フランポネ** (川崎市)
日朝国際交流漫才大会
- **(特非) ウィメンズハウス・花みずき** (川崎市)
孤立を防ぎ、地域と繋がるコミュニティスペースの拡充
- **湘南とアジアの若者による未来創造事業実行委員会** (藤沢市)
絵本で子どもたちの世界をひろげるプログラム
- **一般社団法人 アマヤドリ** (葉山町) **活動報告**
支援の狭間で孤立困窮する若者のためのアパート型シェルター認知のための広報事業
- **(特非) 神奈川フードバンク・プラス** (横須賀市)
ひとり親家庭・無料学習会等への食支援の拡大
- **横内子どもサポートネットワーク協議会** (平塚市)
「横内マイタウンスクール」の継続的な活動のための企画運営
- **かながわりトルベビーサークル pena** (平塚市) **訪問取材**
リトルベビーへの理解を深めるための写真展開催やシンポジウムへの参加
- **あつぎ難聴者手話の会「虹」** (厚木市)
第4回やさしい手話講座の開催

※(特非)…特定非営利活動法人の略

スタッフのみなさん

助成団体活動報告

一般社団法人 アマヤドリ (葉山町)

代表理事 菊池 操さん

支援の狭間で自分の存在を肯定できず苦しんでいる18歳以上の若者たちがいます。日本では18歳になると成人とみなされ、児童福祉法や虐待防止法などの支援制度の対象外となり、虐待やDV等の理由で家庭を頼れずに孤立・困窮してしまうからです。

アマヤドリは誰もが自分自身を大切な存在であると感じ、自分の人生の舵をとっていける世界をつくっていくことを目指しています。そのために、

支援の狭間で孤立・困窮している若者に向けて相談・同行支援と住居提供を中心に活動しています。

これからも信頼関係のある他者とのつながり 一つひとつ自分で選んで挑戦する体験を提供して参ります。

※相談支援…オンライン面談と対面面談を組み合わせ、何度も話を聞き、必要に応じて役所や医療機関等に付き添う同行支援を行う

※住居提供…若年女性専用のサポート付きシェアハウスと、今年度から性別や性自認に関わらず利用できるようなアパート型ステップハウスの運営をスタート



新理事長からの
メッセージ

私たちは市民の温かなお金を循環させる生活クラブ立の市民基金です



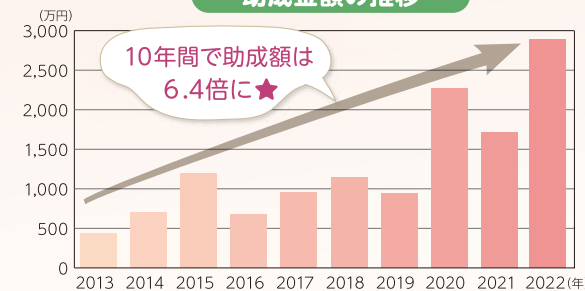
公益財団法人 かながわ生き生き市民基金 理事長 荻原 妙子

市民基金は2013年に設立し、多くの組合員の毎月100円の寄付により支えられて10年を経過しました。2020年に新型コロナウイルス感染症が拡大し、社会的に弱い立場にある、例えば、子どもたち、ひとり親世帯、外国にルーツのある人など、経済循環や行政制度からこぼれる人たちに大きな打撃がありました。食料配布・学習支援・居場所などの支援活動が起こり、その活動を後押ししたのが、組合員・市民からの思いを込めた寄付による助成でした。

コロナ以降も、物価高騰、災害被害、社会的サービスの縮小など生きづらい社会変化は続き、立ち向かうボランティアな市民活動の価値は高まっています。市民基金は小さな公益法人ですが、組合員・市民

の温かなお金の循環をすすめ、市民活動を応援しています。皆様の意志あるご寄付に感謝するとともに、困難な社会の一員としてたすけあいに満ちた社会をめざしていきたいと願っています。

助成金額の推移



助成団体訪問

かながわりトルベビーサークルpena (平塚市)

取材/記事 戸田 美智子さん (生活クラブ神奈川副理事長・かながわ生き生き市民基金理事)

1000g未満で生まれると、母子健康手帳に「成長の記録」の記載箇所が無い。成長が記録できず、発達の確認には「いいえ」と答えることが多いことに、つらい思いをしているお母さんたちがいる。小さく生まれた赤ちゃんを「リトルベビー」という愛らしい呼び方で認知度を高め、我が子の記録を前向きに残すことができる「リトルベビーハンドブック」を、この度神奈川県でも検討会を重ね、2年がかりで完成させた。

その検討会に当事者として参加した坂上彩さんは、同じ思いを持つお母さんたち3名で、2021年7月に「かながわりトルベビーサークルpena」を立ち上げた。

先行して他県や自治体で作成している「リトルベビーハンドブック」を見て、ぜひ神奈川県でも作って欲しいと要望してきたが、なかなか受け入れられなかったという。仲間たちと活動する中で、共感してくれる多くの人たちの力を借りて、やっと作成まで漕ぎつけた。小さな声でも発信することで共感してくれる人を増やし、それが大きな力となり、思ったことが実現できると実感したと言う。今後は、当事者に「リトルベビーハンドブック」や仲間の存在を知ってもらい、地域の方にリトルベビーを応援してほしいと、写真展を企画しているそうだ。



代表の坂上 彩さん



戸田さんが手にしているのは、坂上さんのお子さんが生まれた時の体重(370グラム)で作られたぬいぐるみ

2023年8月、神奈川県版のリトルベビーハンドブックが完成。神奈川県ホームページからダウンロードできる。



第2期 子どもの貧困に立ち向かう市民活動応援助成

県内で無料塾・フリースクールなど学習支援を行う市民活動団体

12団体に総額1,064,000円を助成しました

日本における子どもの貧困

かつては総中流社会と云われた日本社会ですが、この20年余りの間に、格差・貧困が加速度的に広がっています。子どもを取り巻く状況が悪化し、「貧困の連鎖」が起こっています。

2023年7月に厚生労働省が公表した「国民生活基礎調査」では、2021年度の子どもの相対的貧困率（所得水準などに照らして貧困の状態にある18歳未満の割合）は、11.5%となり、3年前の14%に比べて2.5ポイント改善されましたが、依然8.7人に1人が貧困状態にあります。一方、ひとり親世帯の貧困率は、前回48.3%から3.8ポイント改善したものの、依然として半数近くが貧困状態にある高水準となっています。日本における子どもの貧困の特徴は、ひとり親家庭の半数が貧困状態にあることが挙げられます。ひとり親家庭は圧倒的に母子家庭が多いため、子育てをしながらでは正規雇用には就きにくく、安定した収入を得られないことが影響しています。

貧困の連鎖を断ち切り、希望ある未来に向けて

内閣府が公表した「令和3年子供の生活状況調査」によると、親の学歴別貧困家庭の割合では、母親が中卒の場合40.6%と最も高く、大卒の4.6%の約9倍の高さとなっています。世代を超えた貧困の連鎖とならないよう、どんな場合（ひとり親世帯、外国にルーツのある人等）でも、子どもの学ぶ機会が安定してあることはとても重要です。県内で無料塾・フリースクールなど学習支援を行う市民活動を子どもの貧困に立ち向かう市民活動応援基金で、これからも支えていきましょう。

助成団体活動報告

アクティブ・ママ（座間市） 長瀬 未紗さん

当会は2000年、「赤ちゃん連れが気軽に集まる場所をつくろう」と当時のママたちの手によって設立されました。現在は、発足当時から続いている公民館での子育てサロンに加え、さがみ生活クラブの居場所プロジェクトの活動から組合員さんが提供してくれた「ひだまりの家」にて、週1回の子育てサロンや学習支援、月1回の子ども食堂の活動等を行っています。

2019年、サロン常連の外国籍ママのお子

さんが小学校に入学するタイミングで開始した学習支援「ひだまりしっぷ」は、現在は小・中学生中心に多国籍の約30人が在籍し、地域のボランティアが見守る中で子どもたちは宿題や日本語学習などに取り組んでいます。夏休みにはいただいた助成金を活用し、お昼ご飯を提供することができました。外国籍の子どもたちの宗教にも配慮し、普段は日本食を口にする機会のない子どもたちも日本の味を楽しむこと



ことができました。今後も、子どもたちが元気に育っていくよう地域で活動を続けていきます。

2019年度に遺贈プログラムとしてスタートした「子どもの貧困に立ち向かう市民活動応援基金」は、これまでに、市民や団体より総額323万円の寄付が寄せられています。昨年度の第1期助成では、8団体へ787,132円を助成しました。

詳しくはこちら



- NPO法人 スマイルパートナーズ（横須賀市）
- (特非) こどもの夢サポートセンター（横須賀市）
- (特非) 地域で子どもを育む会（大和市）
- (特非) デジタルコンテンツ研究会（相模原市）
- みんなの居場所 結（横浜市）
- たすき塾（横須賀市）
- アクティブ・ママ（座間市） 活動報告
- (特非) 育ち合い広場・てとてとて（藤沢市）
- NPO法人 てらこや食堂ラッキーズ（相模原市）
- ひばり野のなかま達（平塚市）
- (特非) 地域福祉を考える会（伊勢原市）
- NPO法人 自由創造ラボたんぽぽ（藤沢市）

101万円から寄付を受け付けています！
子どもの貧困に立ち向かう
市民活動応援基金

この助成を次年度以降も実施していくために、引き続き寄付の募集を行います。皆様からのご支援をよろしくお願いたします。

寄付の方法

かながわ生き生き市民基金事務局までご連絡の上、下記の口座にご入金ください。

口座名義：公益財団法人かながわ生き生き市民基金

振込先：ゆうちょ銀行

ゆうちょ銀行から ▶ 記号番号 00220-6-102971

ゆうちょ銀行以外から ▶ 〇二九店（ゼロニキュウ店） 当座 0102971

参加者募集

オンライン併用

第1部

第2部

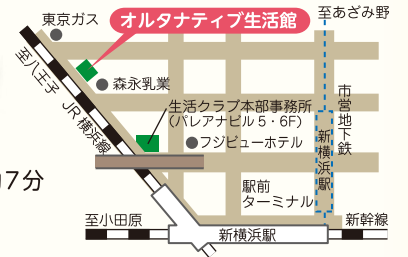
相続セミナー & 個別相談会

日時 12月12日(火)

参加費 無料

場所 オルタナティブ生活館
5階 まなびや

JR・横浜市営地下鉄・相鉄・東急「新横浜」駅より徒歩約7分



第1部：相続セミナー 13:30～15:30

定員 会場15名

★別途オンライン参加も受付

『～いざという時に困らないために～
相続の基礎知識と遺言書の書き方について』

講師 内海光弥 氏（新横浜法律事務所 弁護士）



『令和6年4月施行 相続登記の申請義務化について』

講師 清水保代 氏（司法書士、清水司法書士事務所 所長）

第2部：無料個別相談会

要事前申し込み・お電話でご予約ください

①15:30～ ②16:00～ 定員 各枠先着2名（計4名）

★第1部相続セミナー会場参加者から希望者対象（オンラインでの個別相談はできません） ★定員を超えた場合、当日ご都合がつかない場合は、専門相談員による無料相談をご利用ください。

前回
受講者の声

- 被相続人はしっかりとした遺言書を作成し、相続人の将来に有益になるように考えることが重要であることがわかりました。
- 夫婦で参加したので、食い違っていた知識が修正され共有できて良かったです。

専門相談員による
相続に関する
無料相談

随時受付中

かながわ生き生き市民基金では、専門相談員と連携して相談に関する問題やトラブル、遺言、遺贈寄付など、相続に関する全般的な相談を実施しています。

無料相談をご希望の方は、電話でご連絡ください。弁護士、公認会計士、税理士、司法書士、行政書士の資格を持つ専門相談員にお繋ぎします。

※初回相談（30分程度）は無料です。それ以降は有料となります

相続セミナー & 個別相談会の申し込み・問い合わせは…



公益財団法人かながわ生き生き市民基金
〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-2-15 パレアナビル6階
TEL:045-620-9044 info@lively-citizens-fund.org
※お電話の受付は平日9:00～17:00になります

